

元気がっぱいに泣き声を上げる乳幼児―沼津市大塚の長興寺



赤ちゃん力士 泣き声勝負

沼津市大塚の長興寺は3日、赤ちゃんの健やかな成長を願う恒例の奉納泣き相撲大会を開いた。今年で20回目。市内をはじめ県内外の生後4カ月から1歳8カ月の乳幼児約240人が参加し、元気な泣き声を競った。

東西に分かれた赤ちゃん力士は、郷土出身の力士らに抱えられて「土俵入り」した。行司の掛け声で取組し、先に泣き出した方に軍配が上がった。泣いたまま登場したり、途中で笑い出したりする赤ちゃんもいて、土俵を囲んだ保護者や観客を沸かせた。

清水町から生後11カ月の長男宏君と参加した父親の小河僚さん(33)は「今までで一番大きな泣き声。何事にも負けない気持ちを持つ子に成長してほしい」と目を細めた。

模擬店やバザー、地元の白隠太鼓の披露もあり、多くの家族連れでにぎわった。

沼津・長興寺で恒例奉納相撲

2012年6月4日朝刊 東部版

- ① 「泣き相撲大会」は何のために開かれるのでしょうか。
- ② 「泣き相撲」は、どうやって勝負を決めるのでしょうか。

年 組 名前

(小学校中学年以上 国語)